

海と山に囲まれた観光地、 鎌倉での開業



福永有希

鎌倉かまりんヒフクリニック
(鎌倉市)

2018年7月、鎌倉駅東口徒歩3分、鎌倉のメインストリートにある二の鳥居すぐ近くという趣のある場所で開業させていただきました。桜並木の美しい段葛沿い、観光名所でもある鳩サプレーの本店真向かい、まさに観光地ど真ん中です。

日中は人通りが多く賑わうものの、周囲が海と山に囲まれ、建物の高さ制限もある地区なものですから人口が少なく、事前の診療圏調査ではまさかの受診見込み1日数人という結果で、やっていけるのかしらという大きな心配を抱えての開業でした。しかしながら、開業早々からマダニ、蜂、トンビ、クラゲ等々、海や山でのトラブルに見舞われた方、それに観光途中の蕁麻疹など、今までの勤務先の経験とはずいぶん異なるバランスでの受診症例も多く、おかげさまでなんとか地域医療に貢献できている次第です。

私は鎌倉と海が大好きで、以前から鎌倉駅徒歩圏内で働くことを希望しており、この数年は漠然と東京オリンピックが終わった頃に開業をと考えていました。ここなら開業に丁度良いなと思って眺めていた物件サイドから、昨年思いがけずのオファーを頂戴し、計画前倒しでの開業となりました。そして、すぐさま思いついたクリニック名称が「かまりん」でした。好きな「鎌倉」と「海」を足して「かまくら+まりん=かまりん」です。不思議なネーミングだけに「かまりんですか？」と聞き直されることがよくありますが、駅看板をみた女子高生たちが「かまりんって可愛いねえ！」と名前の響きに大受けしてくれまして、インスタ映えするのか知りませんが、写メも撮って楽しんでいる様子を見た時は我ながら嬉しかったです。

ロゴマークにはやはり海を取り入れ、メインキャ

クターはクラゲです。クラゲのコラーゲンたっぷり感を皮膚科のイメージに重ねたつもりですが、そこが目に留まったのか、開業早々にテレビ局から取材申し込みがあり、朝のニュース番組でクラゲの解説をする機会をいただきました。おかげで、診療の際に番組を見てしまった方から話を振られるものですから、クラゲ刺症の治療だけでなく、クラゲの種類や海に入る時の対策レクチャーなども行っております。

ネーミングとロゴの影響もあってか海好きな方々に御来院いただくので、時々、クラゲ科？ 海科？ みたいな皮膚科になっています。クラゲだけでなくウニのトゲ抜きなども症例豊富です。皮膚科医

ロゴマーク

ならではのダーモスコープや皮膚エコーを駆使して、深く刺さって折れたトゲも丁寧に取り除いています。海が近いと日焼け対策の指導も一筋縄ではいきません。日焼け止めも、ウォータープルーフで、白浮きしない、長時間持つタイプ、かつ敏感肌用など、ご要望に難題が多く、各種メーカー品を多数比べてご案内しています。日には当たるけどシミを取りたいというご希望も多く、頭を悩ませつつ、自らの海体験も踏まえて様々な美容対策をご説明しています。

海だけでなく緑も豊かな鎌倉では、接触皮膚炎や虫刺されなど自然界に関わる症例が多いのも特徴です。しかし鎌倉の地域的なもう一つの特徴が高齢層の多さですから、植木手入れでかぶれたという主訴の中に水疱性類天疱瘡などが混ざっていたりもするので、油断せず常に緊張感をもって診療にあたるよ

う心がけております。

クリニックはバリアフリー対応なので90～100歳代の方も多くいらっしゃいます。幸いにもナースが訪問看護の経験が豊富なので、御自宅での外用処置などが不安な場合には、ケアマネージャーさんと連絡を取りあったり新規に訪問看護を入れたり、と診察後のアフターケアも充実しております。近くに皮膚科ができて良かったと言われる年配の方も多く、開業した甲斐があったなとしみじみ感じております。

立地上、外国人観光客の救急受診もわりとありますが、これまた幸いにも語学堪能なスタッフが多くて英語、フランス語、ポルトガル語に対応できます

ので、医療費対応などは困難ながらも今の所なんとかこなしています。

想定外の事も多く戸惑いながらも、それが新鮮で楽しくも感じる開業ライフです。以前より多忙になって波乗りに行く機会も減ってしまいましたが、願っていた場所で日々働けることを大変幸せに感じております。スタッフにも恵まれ、紹介先の先生方や多くの方々にサポートいただき、感謝に堪えません。常に自身の知識もクリニックのメンテナンスもブラッシュアップし続け、末長く地域貢献のできるクリニックを目指していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

開業のご挨拶

松岡摩耶

山手すずらん皮膚科クリニック
(横浜市中区)

平成30年5月、横浜市中区大和町に山手すずらん皮膚科クリニックを開業いたしました松岡摩耶と申します。

横須賀市に生まれ、中学・高校は藤沢市の湘南白百合学園で過ごしました。平成14年に聖マリアンナ医科大学を卒業後、聖マリアンナ医科大学皮膚科学教室に入局致しました。医学部進学時より、患者さん自身に良くも悪くも結果が見える皮膚疾患を的確に診断、治療し、皆様に信頼される町の先生になりたいというのが、私の希望でした。何もできない研修医時代から「いつかは開業するのが夢です！

クリニック名は『まや皮膚科クリニック』にします。」と大胆発言をし、周囲の先生方を驚かせていました。特に相馬良直前教授には「まずはしっかりと勉強し、論文を書きなさい。」とたしなめられておりました。私が無事に専門医を取得した後より、乾癬に対する生物学的製剤、悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬等が発売され、皮膚科治療は大きく変化しました。恥ずかしながら学位を取得せず、特別なサブスペシャリティーも無い当時の私は、臨床経験をとにかく積もうと考え、どの分野

の治療方針にも首をつっこみ、新しい治療法を導入し、患者さん、医局員とともにその効果を実感していきま

した。特に免疫チェックポイント阻害薬については、その効果の

みならず、副作用も多岐にわたることが次々と報告されました。院内では皮膚科が先駆けとなり使用を開始していたため、卒後10年目を過ぎた私は、他科の先輩・後輩医師と連絡がとりやすいポジションを利用し（実際には、皮膚科が他科に頼る副作用のほうが多かったのですが）、院内の連携体制を確立する調整役もしておりました。

あっという間に、気づけば専門医取得から10年が経過しました。既に開業（横須賀市のすずらん皮

膚科クリニック)している夫といつか共同で診察をしていきたいと考えていましたが、夫も一人での診療スタイルが確立していたため、改めて「私自身で開業したい。」という思いが再燃してきました。

そのようなタイミングでご縁があり、現在の物件を紹介されました。クリニックの場所はJR根岸線山手駅から徒歩4分、銭湯や駄菓子屋さんの残る下町情緒あふれる大和町商店街の中心にあります。初めて見学に行った時は、こんなエリアが中区元町のトンネルの向こうにあったとは、とやや驚きました。クリニックの上階部は賃貸アパートになる物件で、明るい雰囲気のある場所になることが予想され、ここで自分のスタイルで、好きな内装で診療をしていきたいという気持ちが固まり、開業を決めました。

クリニック名は、お洒落なイメージの山手の地名を入れ、「山手まや皮膚科クリニック」も候補にありましたが、上から読んでも下から読んでも「や

まてまや」になることに気恥ずかしさを感じ、自分の名前を入れるのは諦めました。横須賀に開業する際、「すずらん」に「幸福の再来」の花言葉があることを調べて命名したことを大切に、山手の患者さんにも診察後は幸福になって帰って頂きたいと思い、「山手すずらん皮膚科クリニック」と名付けました。ロゴも横須賀のものをピンクにアレンジし、優しい印象となるようにしました。

5月で開業1年がたちます。まだまだ不慣れな点や、改善すべき点もあります。院長というのは、診療以外にも、「ホームページのトラブル」「トイレのトラブル」「スタッフの人事」等、様々な問題と戦う立場なのだとして改めて認識しているところです。その都度、助言をくれるベテランスタッフには日々感謝の毎日です。これから地域の皆様に愛され、信頼されるクリニックとなれるように努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

医院の承継から4年

長橋和矢

さがみ野皮膚科
(海老名市)

平成27年6月、海老名市にてクリニックを承継開院しました。それまでは一般病院の常勤皮膚科医であり、いわゆる一人医長として外来と病棟を行き来する毎日でした。微力ですが、周辺地域で数少ない皮膚科専門医として頼りにしていただき、充実していました。しかし、地元のいわゆる「町医者」の姿に憧れて医学部進学を決めて以来、いずれは開業をという気持ちを持ち続けていました。具体的に検討を始めた頃、医局の先輩医師から承継のお話をいただきました。当時60歳代半ばの先生で、精力的に診療されていましたので、引退するので後を任せたいというお話にとっても驚きました。それまでは医院承継という選択肢は考えてもみませんでした。海老名市という場所は自分の希望する地域と合致していました。神奈川で育ち、これまでも県央地域を主体に勤務していたので、そこで仕事を続けたいと

思っていました。駅から至近距離のテナントビルで、同じ建物に内科、小児科、歯科、薬局とコンビニが入っています。20年以上の歴史があり、患者数も相当多いクリニックの承継に不安はありましたが、どのような形で引き継ぐのか時間をかけて話し合う場を設けていただいたので、決心できました。またとない良いご縁をいただいた先代院長に、感謝の気持ちでいっぱいです。

承継開院のため、一からすべてをつくる大変さはありませんでした。開院したというよりも、そこに新院長が赴任してきたような形でした。内装やシステムを変更することも可能でしたが、準備期間が限られていたことと、患者さんにもスタッフにも既存のスタイルが浸透しているため、極力変更点を少なくして円滑に引き継ぐことを大切にしました。

平成27年3月、私はそれまでの勤務先を退職しました。皮膚科医不足の地域から去ることへの申し訳なさがあったのですが、大学医局が後任常勤医師の出向を決めてくれたので安心できました。退職後は2ヶ月間、クリニックで前院長と一緒に診療を行いながら丁寧にご指導をいただき、細かな部分まで引き継ぎを行いました。この2ヶ月はクリニックの実際の流れを学ぶ貴重な機会であり、スタッフや患者さんと良い関係を築くことに役立つ期間でもありました。

開院前の1週間をリニューアル期間として休診にしました。とはいえ、内装はきれいだったのでそのままにし、診療機材や備品などもほとんど変更はありません。電子カルテ、予約システム、電話番号も変わりません。医院名の変更に伴い、ドアサインと看板を変えた程度です。スタッフも数名は入れ替わりりましたが、幸いにもほとんどが継続で勤務希望となりました。こうなると、リニューアルで変わった部分のほうが少ないくらいです。看板が変わったことなど気付かずに来院する患者さんも多く、診察室に入って異変に気づきます。「あれ、今日は先生が違うね」「院長はお休みですか」と言われたことは数知れず。院長が代わったことを伝えて驚かれる、というのがお決まりのパターンでした。「前の先生にはとてもお世話になったんです」と嬉しいお話を聞いたり、「前の先生はこんなのにすぐに治してくれたよ」とプレッシャーをかけられたり、地域で長年にわたり信頼されていた前院長の存在の大きさを改めて知らされました。同時に、これからは私自身が皆さんの期待にこたえられるよう頑張らねばという気持ちを強く持つようになりました。

承継で良かった点は、安定感だと思います。既存の施設と通院する患者さんを引き継ぐため、スタート時点からたくさんの患者さんが来ますし、継続のスタッフも業務に慣れています。自身を含め、新しく加わったスタッフと、従来のスタッフが調和して

さらによくできるよう、声を掛け合える環境づくりを心掛けてきました。また、初期投資が少ない分、経済的な負担が軽減されます。金銭面に余裕ができることは、開業のハードルを下げることにつながったと思います。

安定性を重視すると自由な変更は制限されますが、おおむね問題ありませんでした。保険診療中心で美容を行わないため、設備や機材を多く必要とせず、特に変更したい点はありませんでした。治療方針についても、前院長とは同じ医局出身ということもあり、違和感なく引き継ぐことができました。もしこれが大きく変わってしまうと、医師と患者双方にストレスがあったかもしれません。

承継で困った点を挙げるならば、開院当初から患者数が多いこと。これは長所でも短所でもあると思います。前院長の頃から時間予約制を採用しており、予約患者の合間に当日受付患者を入れています。特に開院初期は、予約時間通り診療を進めるのが大変でした。院長交代から当分の間は、再診患者さんもほとんどが初対面ですので、それなりに診察時間を要します。そのため予約時間からだいぶ遅れてしまうことがあり、患者さんにもスタッフにも迷惑をかけてしまいました。今でこそ大きな遅れはなくなりましたが、常に時間に追われている感覚になり、気持ちに余裕ができるのはまだ先になりそうです。

開院して4年になります。たくさんの方に支えられ、お陰様でおおむね順調に診療を継続しています。開業してからは、事業主としての責任とやりがいが増えたことが最も大きな変化だと思います。そして、近隣の病医院のありがたさを、これまで以上に感じています。幸いなことに、近隣の先生方や基幹病院の先生方にはいつも快く対応していただき、感謝しています。まだまだ駆け出しですが、地域とのつながりを大切にしながら、これからも日々努力していこうと思います。